

の 広報 た か も り

発行 阿蘇郡高森町役場 TEL (高森局09676) ②0611 [代表]

人 口

— 1月31日現在 —

9,893人 男... 4,799人
女... 5,094人
世帯数..... 2,620
転入 44 出生 19
転出 29 死亡 7



第199号
昭和51年

31日

お も な 内 容

- 清潔で住みよい町づくり.....(2)
- 新成人の選挙意識調査まとまる.....(3)
- 火の点検お忘れなく (春の火災予防運動).....(4)
- たかもりの民話・郷土の博物誌.....(5)
- みんなの広場 (読者がつくるページ).....(7)

▽七日 東 旭通②三〇九 院
▽十四日 寺 崎 院
▽二十一日 小 林 院
▽二十八日 本 田 院
上町②〇〇一六

日曜
在宅医

春へのいぶき
三月の声を聞いた途端に暖かくなってきました。三月の忘れ雪という言葉が不思議に思われるよ

うな暖かさ。
新しい息吹への胎動を始めよ
うとしていたのはかの木々に先駆けて、堤のネコヤナギがかわいらしい綿毛をまとった花をつけまし

俳句

(五十音順)

雨上り庭の嘯り日々増し
女工等の帰宅賑やか日脚伸ぶ
早春の径分けのぼる羅漢堂
遠眼鏡わが家捉えし里の春
顔寄せて幾何学を解く暖房車
丁寧車洗うや春の水
母と娘の話少なく春炬燵
更けし夜の暮の音澄めり風邪に臥す
抱く孫に手をそえ撒くや福の豆
母の忌に嫂の手製の草の餅
久々の里の小川に芹青む

岩下 扶美
内田 あや女
桐原 寿
柴田 ふい子
那須 きぬ子
林 久恵

肥後狂句

珍味 田楽と呑む カツボ酒
中毒して 煉炭炬燵好かつさん
足 ポスターになる脚線美
中毒して アトリエに置くウイスキー
珍味 手垢も丸め込むである
火の車 磨きのかかる媽が囁
足 縄ないながら踊りおる
どきやんかせんか 出る時だけの口約か
足 向けちゃ寝られん保証人
火の車 暮れの手形が命取り
珍味 ゴマメにしたら熱帯魚
火の車 身売りしとらすプロ野球

浦塚 南天
林田 一声
岡本 琴司
田上 黙公
馬原 馬笑
林田 瑤子

おめでた おくやみ

S51.1.16~2.15					
出生	(住所)	(保護者)	(出生児)	(性別)	(生年月日)
津留上町下森	後藤溜	善孝	康博	男	51.1.6
下町	溜	義人	智子	女	51.1.6
森	杉永	竹夫	隆弘	男	51.1.7
下町	後藤	昭雄	里香	女	51.1.12
上町	杉本	輝男	あずさ	女	51.1.13
旭通	西村	伸一	有賀里	女	51.1.21
永野原	工藤	西男	幸喜	男	51.1.29
草部	兒玉	吉廣	広一	男	51.1.22
矢津田	井上	誠廣	寿一	男	51.1.21
草部	黒木	豊	由美	女	51.2.2
芹口	佐藤	國生	重芳	男	51.2.3
永野原	甲斐	幾夫	加奈子	女	51.2.3
尾下	本村	武夫	卓也	男	51.1.10
尾下	本村	武吉	直樹	男	51.2.8

死 亡					
(住所)	(遺族)	(続柄)	(死亡者)	(年齢)	(死年月日)
上 山	栗屋 孝平	妻	栗屋 ヨン子	49	51.1.18
津 留	丹 氏晴	母	丹 スマ	89	51.1.27
前 原	津留 美雄	義母	津留 ササヲ	83	51.1.26
村 山	荒牧 信久	母	荒牧 テルヲ	80	51.1.27
上 在	大野 高芳	同居者	本 田 芳彦	80	51.2.10
大字	津留 末久	妻	大野 サダエ	67	51.2.14
尾 下	野尻 茂	妻	田崎 ヨシノ	76	51.1.21
	政登	養父	野尻 信義	63	51.2.13

雑 詠

友愛
上色見 後藤 嘉平 (86)
○広報で始めて知りし歌人を
社倉の里に訪ずれにけり
○願はくば哀愁苦楽分ち合い
余生の旅路共に歩まん 楽天

ご 寄 付

ありがとうございました
△香典返しとして▽
▽高森下町の山村将護さんから
▽高森上在の栗屋孝平さんから
(妻、ヨシ子さん・49歳死去)
▽中の本田チズ代さんから
(父、毅さん・52歳死去)

片言の言葉数ふえ春近し
去る人も来る人もあり芽ぐむ日々
何やらの芽らしくそとと土払う
針供養針使う日もまれになり
大試験終りバイトに励みなり
暖かや裾をからげて庭を掃く
春の陽の溢れ施設の作業部屋
思はざる計をきく朝の春風

平田 り子
古 庄 泰子
松 岡 信子
山 林 ふみ子

(夫、他人長さん・78歳死去)
▽上色見の荒牧信久さんから
(母、テルヲさん・80歳死去)
▽高森津留の津留美雄さんから
(養母、ササオさん・83歳死去)
▽上色見、山鳥の丹 氏晴さんから
(母、スマさん・89歳死去)
△一般寄付として▽
▽高森昭和の一住民から「愛の一
円玉貯金」を
▽高森横町の飯屋知佐さんから病
気見舞の返礼として
(以上、町社協分)
▽高森上在の大野サダエさんから
上在の老人クラブ・婦人会へ
(香典返しとして)
▽上色見老人クラブから色見小へ、
沢山の竹ボウキとゾウキンを

草部地区に待望の基幹集落センターが完成して、私は初めての会合である婦人学級に参加してみました。日ごろ家事に追い回されて、会合には余り出席できなかった私も、この日ばかりは、ぜひ出席しようと思いをこめて、センターへ向ったのでした。道中の梅のつぼみもほころび、小鳥のさえずりも楽しく語りかけているかのような気持ちです。センターはモダンな屋根をした近代的な建物で、もう入口付近には大勢の方が集まっておられました。私たちはうれしいうえに言葉交わしながら、センターの調理自習室を始め、保健相談室、娯楽室など各部屋を見せてもら

集落センターの完成喜ぶ

永野原

堤

桃子

(40)

い、設備が整っているのに感心させられました。と同時に、こんな立派な施設を建ててくださった町ご当局や関係者のご協力に感謝せずにはおられません。このご恩に報いるためにも、私たち婦人はこのセンターを有意義に利用させていただき、進歩ある人間にならなくては、と心に誓いあいました。

いよいよ二階の大研修室での婦人学級の幕開きです。室内全体が真新しい備品ばかりで、私は新生のような喜びでした。

午前中は、佐藤一の宮教育長の講演があり、海外の教育、生活、子供のしつけなど興味深く聞きま

した。その中で「現代の人々はテレビなどの普及で感謝の気持ちを忘れ、勤労意欲も失ないかけている。私たちは昔に立ち返って反省する必要があるのではないか」とのお話は特に心に残りました。

午後は姑と嫁の立場を描いた映画会や国民年金の説明があり、これまで知らなかった事柄を一度に勉強でき、有意義な一日でした。

草部のみなさん、大いにセンターを利用して親善を深め、発展ある草部にしようではありませんか。

(詩) 草部小六年 芹口正智

なわとび大会

今日はなわとび大会

ぼくは、れんぞくとびは五百回できると思っていたら、たったの七十六回しかできなかった

ぼくは、なわとび大会は、なければよいと思った

そして、ぼくが一番にがてなしゅもくは二段とびだ

ぼくは、びじんな女子がいたら、ぜんそくとびは千回とべる

「人の一生は重き荷を負いて、遠き道を行くがごとし、急ぐべからず。不自由を常と思えば不足なし、心に望み起らば困窮したるときを思い出すべし。堪忍は無事長久の基。怒は敵と思え。勝つことばかり知て、負けることを知らざれば、害この身に至る。これは徳川家康の家訓。私が高等小学時代に覚えたもので、第二期の処世の上で大いに参考となることが多いようだ。

① 人生とは決して楽なものではない。苦の連続である。少なくとも、この期間は自己を信じ、こつこつと苦しみ耐えて努力を持続して、自己に打ち勝つ覚悟と決意が必要で、努力には苦しみが続く。つぎまわってくる。次の谷口雅春著「真理」の一節を引用するとして。

自己を偉大視する信念なくして、偉大にまで生成した人はない。「何事をするにも出来ない」

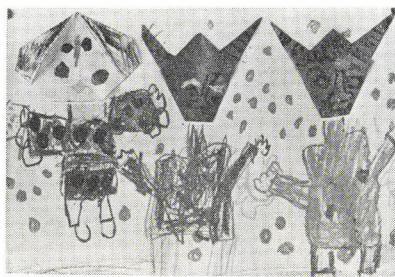
人間のけじめ

津留馬原範三 (72)

③ 今年には昨年以上に苦難な年のような気がする。太平洋戦争の末期、現在五十歳以上の方には「勝つまでは」と共に苦しみだことを思い出されるに相違ないが、一つ今年には自己をよく猛省して、自己の研修に努め、与えられた自分の仕事に、全身全霊をぶち込んで頑張り通したいものである。

(つづく)

みんなの広場



「折り紙」 高森保育園 甲斐とく子 (5歳)

このページはみなさんが主役です。あなたの意見や声をお送り下さい

清潔で住みよい町づくり



ゴミ処理場の埋立地は不燃焼物でいっぱい

ゴミ減らし考えよう

節約時代とはいえ、大量消費の波に乗って家庭から出るゴミはふえる一方。南郷谷の四町村で建設した清掃センターで取り扱うゴミの量は一か月平均二百七十ト、年間では平均三千二百四十トにもなっています。ふえ続けるゴミに対処するためには町のしつかりした処理体制づくりはもちろん、みなさんの「ゴミをなくそう」という考えが必要です。

決め手はみんなの協力

もっと再利用の工夫を

本町の人口は五年前にくらべると千人減なのに、ゴミは一日平均四・五トで約二倍以上もふえています。清掃組合でも処理体制の確立や指導に力を入れて、これに処しています。焼却炉の補修、埋立場の拡張、衛生的な処理に全力をあげていますが、用地の取得難や巨額の財政負担などを解決するためには相当の時間が必要です。私たちの町でゴミ処理に使う金は約六百七十万円。一世帯当たり二千五百七十円になり、四十九年度と五十年度を対比すると一・五倍に達しています。

このような現状の中で、ゴミ退治に効果のある方法として、町民一人一人の「ゴミ減らし運動」が考えられます。不用意に捨てられたゴミを処理するために使うお金は、みなさんが納められた税金でまかなわれているのです。「ゴミのない清潔で住みよい街」をつくるため、もう一度家庭から出るゴミを考えなおしてみよう。

ゴミを減らす具体的な方法として

① 安物買いのゼニ失ない にならぬように、本来に必要なものだけを買おう ② 使っているとき一回でも多く使えるよう大切に使いまわそう ③ 使ったあとでビン、カン、ポリ容器などは必ず販売店へ返す習慣をつけよう ④ 金属類、古紙(新聞、雑誌、ダンボールなど) 古繊維、ビン類は廃品回収業者に売却できます。

ところで、最近では大型ゴミの持ち出しが多く見受けられます。燃えないゴミは不燃焼物の収集日に回収していますが、建物の廃材(砂、ブロック、トタンなど)、農業用ビニール、チップなどは事業者の責任で処理してもらっています。

これは法律で事業者の責務として①事業活動によって生じる廃棄物は、事業者自身の責任で適正に処理すること②廃棄物の利用などの資源化を積極的に行って、減量に努めること③生産物が終局的には廃棄物として排出されることを考え、処理が困難とならないよう必要な措置をとることなどが定められている。すなわち産業廃棄物は事業者自身で処理することが義務づけられているのです。

産業廃棄物について、清掃センターでは一般のゴミとあわせて処理できるものに限り搬入を認めていますので、くわしいことは清掃組合 ☎高森 ☎〇七一九におたずねください。

お知らせ



高森電報電話局長
として赴任された
城間俊男氏



沖縄電報電話管理局の首里統
制無線中継所長を五年勤めたあ
と、九
月三十日
州電気通
信局保全
部調査役
を一年、
そして一
月三十日
付で高森電報電話局長として赴
任されました。旧満洲国の大連
市生まれ。父の後を継いで二十
六年に入社。当時は戦争で荒廃
した沖縄の通信設備の復旧工事
に明け暮れたそうです。

着任直後の舟も「これから当
地のことをいろいろと勉強しな
い」と謙虚ですが「さしあた
っては、前局長の方針を受け継
ぎながら管内の状況を適確につ
かみ、地域の要望に応じた通信
事業をすすめたい。高森は自然
が豊かで、人情もこまやか。職
場でも家庭的な和を
大切にしたい」と語
っておられました。

したが、このさい「日曜日は、
家族とともに社会一般の人たちと
同様に休みたい」という希望をか
なえさせたものです。
日曜日の配達休止は中止された
が、利用者に迷惑がかららないよ
う配達郵便は日曜日でも配達され
るということです。

4月から公営住 宅の家賃値上げ

本年の四月一日から公営住宅の
家賃が約四〇割値上げになりま
す。おもな理由は①物価の変動に
伴い、用地取得費や工事費なども
上昇しており、新規の公営住宅の
家賃が高額となる②既存の公営住
宅の家賃が著しく低額のまま据置
かれていたため、公営住宅の入居
者間に家賃負担の不均衡が生じ、
社会的な不公平感を増大させてい
る③現在の家賃収入では住宅の修
繕、改良も出来ないなどのため
です。

郵便物の日曜 日配達を休止

さる二月二十九日から高森郵便
局の日曜日の郵便配達が休止にな
りました。
郵政省では郵便配達に必要な要
員確保のために、職員の処遇改善
など、いろいろな措置を講じていま

くみ取り料金を改定

阿蘇町外八か町村衛生施設組合
は本年一月からくみ取り手数料を
これまで十湯三十三円を四十三
円に値上げしました。
くみ取りの受け付け、ご相談は
町民課衛生係で行っています。

この台帳には、価格および課税
標準額が記載されています。縦覧
期間が過ぎますと価格が決定し、
審査申立て期間(三月三十一日)
後の異議は受理されません。
万一、誤りがあったり、ご不審
の点がありましたら直接係員にお
たずねください。

確定申告と納税 は3月15日まで

所得税の確定申告と納税の期限
は、三月十五日までです。まだ申
告と納税のお済みでない方は、期
限までにお済ませください。

申告書はご自分で書いていただ
くことになっていますが、書き方
などでお分からなくなるときは、
は、税務署か町の納税相談会でご
相談ください。

通信講座で技 能士になろう

職業訓練大学校では、生産現場
で働いている人のために二級技能
士訓練課程通信講座を行っていま
す。これは通信制であるために自

固定資産課税 台帳の縦覧を

固定資産課税台帳(土地、家屋
償却資産)の縦覧は、もうお済み
ですか、現在、本町役場では三月
二十日まで関係者への無料縦覧を
行っています。物件所在の本庁ま
たは出張所へお出でください。
時間は午前八時半から午後五時ま
で。日曜、祭日は休みです。

新成人の選挙意識調査まとまる

町では今年成人式を迎えた百五十三人のうち、さきに畜産セ
ンターで行った成人式に出席した若者に対して選挙への意識調
査を求めています。このほど回答を寄せた六十二人につい
ての結果がまとまりました。

町選管

答え 「自分の意志」(九五・
二割) 「数人の話し合い」(一・
六割) 「お世話になったから」
(一・六割)
問い 一番関心をもっている選
挙を一つだけ答えてください

答え 「はいりやすい」(五〇
割) 「はいりにくい」(三二・五
割) 「行ったことがない」(二四
・八割)
問い はいりにくいと答えた人
に、その理由を――
答え 「何となく堅苦しく感じ

答え 「衆議院議員」(一六・
一割) 「参議院議員」(六・五割)
「県知事」(一一・三割) 「県議
会議員」(一一・三割) 「町長」
(四・五割) 「町議会議員」(四
一・九割)

選挙権の必要性認識

候補者に対する不信も

これは次代を背負う新成人が選
挙権を取得したことについて、政
治や選挙にどのような関心を寄せ
ているかを知るため、質問十題を
設けてアンケート調査したもので
す。その結果、例えば、政治に直接
参加するための選挙権をどう思う
か、との問いに
対し、ぜひ必要
だと答えた者が
半数以上を占め
た反面、国や地
方の政治は、自
分たちの選挙次
第ではよくあると思うか、の問い
に對して、よくあると答えた者は
少数にすぎず、候補者に対する政
治不信がみられました。

町選挙管理委員会では、このア
ンケートに基づき、どのように青
年たちの選挙意識を盛り上げてい
くか、具体的な対応策を検討する
ことにしています。
問い 役場に用事でこられた場
合、はいりやすいですか

答え 「大変ある」(二五・八
割) 「少しある」(四八・四割)
「あまりない」(二五・八割)
問い 今後投票する場合、次の
どれによって投票しますか

名簿に登録され
ていないと投票
されないのを知
っていますか
答え 「知っ
ている」(八二
・三割) 「知らない」(一六・一
割)
問い 政治に直接参加する機会
は選挙ですが、自分の選挙権をど
う思いますか
答え 「ぜひ必要だ」(六九・
四割) 「あってもなくてもよい」
(一一・三割) 「必要ない」一・
六割)
問い 選挙次第では、国や地方
の政治やあなたの生活がよくなる
と思いますか

野尻水上に住む栗焼功さん
(七五)が郷土へ恩返ししたいと、こ
のほど地元野尻中学校(高宗健
一校長、生徒数九十九人)へ校門
を寄贈しました。
栗焼さんは満洲・支那事変の復
員のさいや、戦後、自宅が火災に
あったとき、地元の人たちにお世
話になったことが忘れられず「い
つか役に立つことをしたい」と心
に決めていました。「なにか形の
あるもので地域に役立つものを」
と、思い続けていたところ、孫が
通う同校に校門がないことに気が
つき、町の了解をもらって業者に
建設を頼みました。
できあがった校門は七十号角の
荒尾石(安山岩)で、基礎からの
高さは一・三メートル磨きがかけれ
ており、片方の門柱の中央部には
アフリカ石がはめ込まれ「野尻中
学校」と書かれています。
全校生徒集まっただけの除幕式で、



野尻中に校門贈る

野尻水上の
栗焼さん 地元へ恩返し

答え 「よくある」(二四・二
割) 「ならない」(三三・九割)
「わからない」(三三・七割)
問い 高森町政は若い人の考え
を取り上げていると思いますか

答え 「思う」(一一・三割)
「思わない」(三五・五割) 「わ
からない」(五三・二割)
☆ ☆

火の点検お忘れなく

3月13日 春の火災予防運動

春の全国火災予防運動は「幸せを明日につなぐ火の始末」を統一標語に、二月二十九日から三月十三日までの期間で行われています。町でも広報車を繰り出して予防運動を展開しますが、これからは季節風も吹き、大火になりやすい時期を迎えているため、とくに林野火災などの防止に力を注ぎます。

と、昨年一年間の県内の火災は五百九十四件で、前年より百五十一件の減少をみており、また火災による死者も五人少なくなっています。しかし、損害額は十二億三千万円と昨年に比べ三九・二割と著しく増加、とくに死者の中では老人、子供の割合が八四・六割と高くなっています。

また火災の原因別でみると、たき火がトップで六十三件、次いでたばこの不始末の五十八件、火遊び四十件、ガス器具類の操作ミスや不注意が三十五件などとなっています。一方、シーズン別では一月(四十七件)二月(五十二件)三月(百二十

二件)が火災の多発期で、この三か月で一年間の三七割を占めています。

そこで、①暮らしの中の防火点検②旅館における安全確保③危険物施設の安全管理―を三本柱にして①たばこの投げ捨て、寝たばこ習慣の防止の徹底②ガス器具の正しい使い方の習熟③老人、子供、病人の安全避難の確保④消防用設備などの総点検と機能保持⑤危険物施設の安全管理⑥林野火災の防止―などを重点目標に予防運動を呼びかけることにしています。



このほど、高森郵便局で飯屋局長から賞品の折りたたみ自転車を受け取りました。本町では二年ほど前に一等に当たった人がいましたが、年に二人もの当選者が出たのは初めてのことで。

価格の差も著しかった④手づくりの商品は評判がよく、品質次第ではよく売れる⑤実演販売は好評だったが、茶屋のスペースが狭くムードに欠けていた―などの活発な意見、要望が出されました。

町ではこれらの声をまとめ、同様の催しが計画された場合には、効果のあがる方法を考えることにしています。

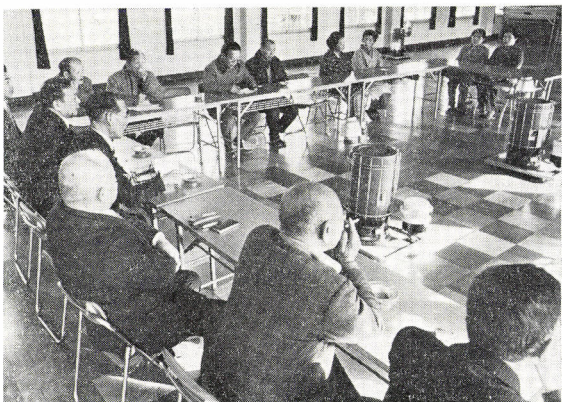
一等に本町から二人も

お年玉年賀ハガキ

ことしのお年玉付き年賀はがきの一等当選者が本町から二人でま

販売方法で意見交換

「民芸と味まつり」反省会



反省会で活発に意見を述べる関係者たち

町ではこのほど、町議会、商工、農協、婦人会、加工業者など関係者約三十人を集めて、「民芸と味まつり」の反省会を畜産セ

ンターで開きました。

この「民芸と味まつり」は、各地に埋もれている名産、特産物のPR販売と販路開拓を図るため、熊日および阿蘇十二か町村の主催で、一月十五日から六日間、岩田屋伊勢丹で行われたものです。

まず岩田町長から「初めての催しで不向き届きの点もあったようです。町の観光は休暇村の建設などによって脚光をあびつつあります。この貴重な体験を生かして、こんごの観光特産物の開発に努めてください」とあいさつがあり、全員で意見を交換しました。この結果①割り当てられた売場面積が手狭で、効果的な販売ができなかった②デパートの室内温度が高くなり自然食品の販売には工夫が必要だった③他町村との競合販売品が多く、

価格の差も著しかった④手づくりの商品は評判がよく、品質次第ではよく売れる⑤実演販売は好評だったが、茶屋のスペースが狭くムードに欠けていた―などの活発な意見、要望が出されました。

町ではこれらの声をまとめ、同様の催しが計画された場合には、効果のあがる方法を考えることにしています。

兄さんに連れ添われて賞品を受け取りにきた佐野さんは「まさか私に当たるなんて夢みたい。手持ちの自転車古く、新しいものがほしいと思っていたところでした。家族で大事に使います」と大喜びでした。Ⅱ写真は飯屋高森郵便局長から賞品の自転車をもらった佐野さん

たかざりの民話

<8>

餅をこわがった男

昔な、あるところに一人の男がおった。いさぎい山の中に住んで、難儀な暮らしをよった。もちやき、生まれこゝかた、まあだ一ぺんも餅ば食たこともなからにや、見たこともなかつた。そんな男が、ちいっとひらけた里から嫁御ば貰うた。

そんな年初正月でな、嫁御の里に、正月歩きに行かにやならん。嫁さんな腹が太うして、どんこん一緒にや行けんもんじやき、婿さんが一人で行くこつになつた。嫁さん里じゃ、いろいろこつとお(ち)そ(う)ばして、婿さんばもてなした。正月じやき、餅も出さした。ところが、今まじ見たこつんにや、白うして丸いもんば火にあぶらすんで、婿さんな物珍らしゅうして、じいっと、そればねらみつけとった。

いっときすると、そのえたいの知れんが、ぶうとぶくれち、もとん倍ぐらになつたもんじやき、婿さんなひったまげた。ひったまげただけならええとん、ぶく

れた餅ば、化けもんぐらに思うち、むごう、おぞがって、家の中ば逃げ回るげなもん。家んなが「こりや何も、そぎやん恐しかもんじやにやー食いもんじやが」てち、なんべんも言い聞かせたつちや、おぞがって、とうと食わんずく、自分方さん戻ることになつた。

帰りざわに、おっかさんが「娘んみやげにしてくだはり」てち、餅ば重箱に詰めち、風呂敷にしっかり包んで持たせようごつさすと、まあだ、おぞがって「手にや持つちや行けん」てち言う。どんこんしよんにやもんじやき、そん風呂敷包みば竹ざおん先にいつち、やうとこさ持たせらしたげな。婿さんなそりで、ようよ安心して、自分方さん戻つた。

いっとき歩きよつたところが、竹ざおにいつけたとこが、ほどけちかり、包みが肩まじ落ちかかてきたもんじやき、おおごつ。

「餅ちゅう化もんが、おりが肩にくらいちいた」てち、えらいおぞがって、そん包みば、地べたに投

郷土の博物誌

「春は名のみの風の寒さよ」という歌もあるように、三月とはいえ、まだ祖母山群は神々の座のように樹木に飾られ、野尻高原はレースを敷きつめたような残雪の輝きが美しい。大谷川の渓谷ではネコヤナギの芽が幾分ふくらみ、氷を縫って走る水の音に、心なしか春のきざしを感じるこのころである。このように、さびしい冬の川でたくましく生きていくのがカワガラスと川の精のよう美しいヤマセミである。

ヤマセミ



私は野鳥に興味を持ち始めたころ、毎夜、寝床の中で鳥類図鑑の頁をめくることが楽しみであ

ったが、そのとき、野尻にもこんな鳥がいてくれたらいいな―と、思ったものの一つが、このヤマセミであった。

白と黒のんだら鹿の子の粋な衣裳をまとっているうえ、雄にはまるでインデアン酋長のよう羽根飾りがある、いかにも川の王様といった威厳に満ちた姿をしている。

この鳥には、はっきり決まった生活の領域があって、ほかのヤマセミの侵入を絶対に許さない。領域の中で上から下へ、下から上へと一定の時間を決めて往復するし、翼を休める木の枝や餌場も決まっている。それでこの習性さえ知っていれば、写真撮る者には全く都合の良い鳥である。

巣は主に高い赤土の土手に、くちばしと足で約一センチの穴をうち、四月から六月にかけ小魚を採ってきては雛(ひな)を育てている。

カワセミと同じように魚採りの名人で、木の枝から水中へ急降下して、口に魚を縦にくわえて元の枝に帰ってくる。(非羽翠目、ヒスイ科、ヤマセミ属)

高森町文化財保護委員 佐藤 武之